



今号の内容

- ・ オリエント・シールド24
- ・ 日米合同演奏会
- ・ 各部隊活動
- ・ 隊員家族投稿 (第14飛行隊)
- ・ キーパーソン (第15即応機動連隊)

Vol. 189
2024. 6-8

ORIENT SHIELD24

令和6年度国内における米陸軍との実動訓練



第14旅団（旅団長 大場剛陸将補）は、令和6年7月中旬、あいち野演習場（滋賀県）及び矢臼別演習場（北海道）で行われた令和6年度国内における米陸軍との実動訓練（オリエント・シールド24）を担任しました。

あいち野演習場では、第15即応機動連隊（連隊長 徳淵文雄1等陸佐）、第14後方支援隊（隊長 佐藤欣央1等陸佐）及び第14飛行隊（隊長 池水俊二2等陸佐）が中心となり、ヘリボン行動や市街地戦闘、衛生救

護、兵站輸送など各場面ごとに焦点を当てて行われる機能別訓練、一連の戦闘行動を状況下で行う共同戦闘訓練、各シナリオのもと行った共同戦闘射撃訓練により、米陸軍との認識の共有を図るとともに、共同して作戦を実施する場合の相互連携要領について深化させました。

また、矢臼別演習場では砲兵部隊の実弾射撃訓練が行われ、中部方面特科連隊第4大隊（大隊長 谷川維孝2等陸佐）、第14情報隊（隊長 濱田安彦2等

陸佐）が参加し、陸上自衛隊が保有するFH-70、米陸軍及び米海兵隊が保有するHMARSの射撃を行い、目標情報の共有など相互の連携要領について確認するとともに、第14情報隊のスキヤンイーグル2（無人偵察機）により目標搜索及び射撃効果の収集・提供を実施するなど空地の連携により効果的かつ実戦的な射撃を行いました。

第14旅団は、オリエント・シールド24を通して日米間の強固な団結を築くとともに訓練間に得た教訓を今後の任務に役立てていきます。

共同戦闘訓練①

領域横断作戦部隊及び第15即応機動連隊は、米陸軍と連携した作戦行動を実施しました。



警戒する米陸軍

共同戦闘訓練②

MCVと米陸軍が綿密に連携を取り合い、示された目標地域まで前進し、目標を奪取しました。



MCVと共同して前進する米陸軍

共同戦闘訓練③

米陸軍のCH-47をもって日米共同でヘリボンを行い、素早く目標地域に向けた空中機動展開を行いました。



ヘリボンからの機動展開

中部方面特科連隊第4大隊は、矢白別演習場において陸上自衛隊が保有するFH-70と米陸軍と米海兵隊が保有するHIMARSと共同射撃を行い、相互の連携要領について確認しました。



HIMARSの射撃

第14情報隊は、矢白別演習場においてスキャンイーグル2の飛行訓練として目標搜索及びFH-70とHIMARSの着弾状況を撮影して、射撃効果の状況を映像により、各種調整所に配信しました。



スキャンイーグル2の発進準備



野球

野球監督 澁谷曹長

楽しく安全に勝つ！を
モットーに頑張りました。



21対18
日本勝利



サッカー

サッカー監督 土居1曹

日頃の筋トレの成果もあり、
フィジカルでも負けておらず、
勝ちにこだわって盛り上げるこ
とができました。



3対0/4対1
4対2/5対1
日本勝利



バスケットボール

バスケ監督 富田1尉

フィジカルが強い上に技術も
あって手強い相手でしたが、機
動力と速さでは負けていません
でした！



46対48
アメリカ勝利



書道

書道師範 上甲3曹

友達をもてなすように教えま
した。自分の好きな書道を楽し
んでもらえてよかったです。



第15即応機動連隊は、
あいは野演習場（滋賀県）
で実施されたオリエン
ト・シールド24の開始に先立
ち、「野球」「サッカー」
「バスケットボール」「書
道」を通じて米陸軍との親
睦を深めました。

各スポーツでは、自衛隊
と米陸軍のそれぞれの選抜
選手同士で、日頃より鍛え
上げている肉体を武器に熱
戦を繰り広げました。

書道では、米軍の隊員の
名前に漢字を当て、その当
て字を書いてもらい、自分
の名前に使われた字がどん
な意味をもつのかを知るこ
とで、日本の文字及び文化
を楽しんでもらうことが出
来ました。

スポーツ及び書道を通じ
て、言葉の壁を乗り越え日
米の団結をより強固なもの
にすると共に、オリエン
ト・シールド24の開始前
に英気を養いました。

第14飛行隊投稿

言葉で繋ぐ日米共同の架け橋



先遣部隊を空輸するUH-1



通訳として活躍する青木2尉

第14飛行隊に所属している青木2尉です。

私は、令和6年度国内における米陸軍との実動訓練
（オリエント・シールド24）に情報幹部兼ねて通訳
要員として参加しました。令和4年度末に幹部普通英
語課程を修了して以来、初の英語を活用する訓練であ
り、改めて通訳の重要性を実感しました。

訓練間、飛行隊長の通訳として勤務した時のこと
です。米陸軍の方々には隊長の言葉を通訳の私を介して理
解します。隊長が発言された後に通訳の私をジッと見
つめるのです。もしそこで私が自信のない態度で通訳
してしまうと、指揮官も同様の姿勢であると誤解が生
じる可能性があります。そのため、隊長の言葉を通訳
するだけでなく、そこに込められた感情や姿勢も表現
し、指揮官の偉容を映す鏡になることを心掛けました。

言語の壁がある中、通訳は双方の意思を伝える懸け
橋のようなものです。相互理解のため、ただ言葉を訳
するだけではなく、その言葉に込められた感情も伝え
ることが重要であると感じた訓練でした。

01 日米合同演奏会を実施



大いに盛り上がった演奏会

「音楽」に壁はない！

令和6年7月13日、第3海兵遠征軍音楽隊（沖縄県）を招き、第14旅団として四国地区では初の日米合同演奏会を実施しました。

本演奏会は、香川県自衛隊協力団体が主催する「第46回自衛隊音楽隊高松定期演奏会」の場で披露され、第1部は、第14音楽隊（隊長 平林誠1等陸尉）が和楽器を使用した演奏を取り入れ日本らしい演奏で会場を盛り上げると、第2部では第3海兵遠征軍音楽隊のビックバンド形式による迫力のある演奏で会場の熱気は最高潮に達しました。第3部は日米両音楽隊での合同演奏を行い、日米の指揮者による演奏をお届けしました。米側の指揮を執った第3海兵遠征軍音楽隊のバンドマスターであるマイケル・スタンリー特務曹長が練成中から何度も伝えてきた「言葉の壁はあっても音楽の壁はない。」という言葉の通り息の合った演奏を披露しました。

音楽を通して強固な日米同盟を観客の皆様にご覧いただきました。

02 地元香川県のホールでさまざまな曲目を披露

恒例の「ソファミレどん！」も実施

第14音楽隊（隊長 平林誠1等陸尉）は、アイレックス（丸亀市綾歌総合文化会館）で開催された「あやうたサマーコンサート2024」において広報演奏を行いました。

2年ぶりの参加となった本コンサートでしたが、今回もさまざまなジャンルの演奏が楽しめる内容で、来場者の皆様に大いに喜ばれました。

第1部では、今年度吹奏楽コンクール課題曲である行進曲「勇気の旗を掲げて」と「メルヘン」に加え、ユーフォoniumソロの「騎士」やミュージカル「レ・ミゼラブル」等の曲目により高度な技術を披露、続く第2部では、テナーサクソソロの「サムシング」やCreepy Nutsの人気曲「Bling-Bang-Bang-Born」等を演奏し、観客を魅了しました。

また、毎年恒例の人気企画「クイズ ソファミレどん！」も行われ、観客と一体となった会場の盛り上がりは最高潮となりました。

さらに新たな試みとして、開場前に屋外でトロンボーンカルテットの演奏が行われました。

また、開演前のステージ上でもディキシードジャズの演奏が披露され、多くの来場者から好評を博しました。

今後の演奏会も是非ご期待ください！



←ステージ演奏の様子



←ディキシードジャズの演奏

↑屋外で行われたトロンボーンカルテットの演奏

03 日出生台演習場で各職種訓練を実施

最強戦士を目指して訓練に挑む

第50普通科連隊（連隊長 水関謙作1等陸佐）は、7月中旬、日出生台演習場（大分県）において訓練を実施しました。本演習では、島しょ防衛に任ずる普通科部隊としての行動、特に作戦準備間における任務の継続性の確保、作戦戦闘の要領、領域横断作戦を行う部隊との連携要領について演練し、その練度を向上しました。初夏の猛暑の中、各隊員は自身の任務を理解し、訓練に邁進しました。



野外における
指揮所活動の様子



戦闘間負傷した隊員
を搬送する隊員



MCVと連携をとる小林小隊長



道路閉塞の指示を待つ小川1士

伝統の技術で道を切り拓く

第14施設隊（隊長 吉田正幸2等陸佐）は、7月中旬、日出生台演習場において実施された訓練に参加しました。

本訓練に参加した小隊長（小林研二郎2等陸尉）は、小隊を指揮し、味方の部隊を通過させつつ、敵の侵攻を阻止するため、道路上に障害を構成する等、防御支援に任ずる施設部隊として、任務の継続性の確保を考慮した作戦任務を完遂しました。

本訓練に参加した施設手の小川直哉1等陸士は、「諸職種協同訓練は今回が初めてでしたが、訓練の中で施設科職種が担っている任務の重要性を実感することができ、普段分隊長から指導されていることが改めて理解できた。自分たちが道路の閉塞作業を実施している時に掩護してくれたMCVが頼もしくかっよかったです。」と演習を振り返りました。

見えない敵から仲間を守る

第14特殊武器防護隊（隊長 西原清隆3等陸佐）は、7月中旬、日出生台演習場において実施された訓練に参加しました。

訓練間、気温30度を超える炎天下の中、汚染地域の除染を実施して、隊員個々の練度を向上させるとともに、隊員間の連携を向上させ、事態対処能力の向上に努めました。

隊員が着ている化学防護衣はゴム製で密封されており全身を有毒ガス等から完全に防護することができます。簡単に訓練をしているように見えますが、全備重量は約6kgあり炎天下の中、任務を完遂するためには暑熱順化など日頃からの体力練成が必要不可欠です。

令和6年度の新たな編成での訓練でしたが、昨年度参加した訓練の成果を反映して円滑に任務を遂行することができました。



汚染地域の除染活動の様子①



汚染地域の除染活動の様子②

04 訓練検閲の実施

戦闘部隊を支える

第14後方支援隊（隊長 佐藤欣央1等陸佐）は、6月下旬、日本原演習場において補給中隊及び輸送隊に対して訓練検閲を行いました。

本訓練検閲においては、戦闘部隊に対する補給及び事前集積要領、段列（※）における私の企図を秘匿するための行動について評価しました。

受閲部隊は補給中隊長（長岡英明1等陸尉）及び輸送隊長（中川富沙子3等陸佐）の統率のもと準備を万全にし、本訓練検閲に臨み、統裁官要望事項である「創意」「挑戦」「安全管理」を実践し、私の企図を秘匿しながら、事前集積を行うとともに各種施設の警戒、開設、維持・運営、築城並びに支援する部隊に対する再補給を完遂し本検閲を終了しました。



補給中隊 検閲前の点検状況



輸送隊 車両点検



輸送隊と補給中隊が協力し、補給品の輸送・卸下

※段列：主に補給や整備、衛生といった後方支援を担う部隊等の活動地域

05 対空実射訓練(11短SAM)を実施

チームで掴み取った要撃成功

第14高射特科隊（隊長 渡辺大嗣2等陸佐）は7月中旬、静内対空射撃場（北海道）で実施された令和6年度対空実射訓練に参加しました。

本訓練は11式短距離地对空誘導弾（11短SAM）を保有する全国の高射特科部隊を対象に、陣地占領から対空射撃にいたる一連の部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作を演練する訓練です。

訓練に参加した隊員は、小隊長（藤根涼太2等陸尉）を核心とし、年度当初から、段階的かつ計画的に部隊を練成し、要撃成功の成果を収めました。

藤根小隊長は、「射撃小隊長として実射に対する不安はありましたが、皆の支えがあり最高の1発を発射することが出来ました。要撃成功の成果は一生忘れることはありません。」と語り、初の実射を経験した発電機手（※）（加藤大将陸士長）は「初めての实射に参加し、最初はミスばかりで、先輩方に迷惑を掛けてしまい、悩むこともありましたが、最後は発電機手として、任務達成に貢献する事が出来ました。」と話しました。

次は、近距離地对空誘導弾（近SAM）対空実射訓練に向けた部隊練成を実施し、高射特科隊員として更なる練度の向上を目指します。



弾薬搭載



射撃の様子

※発電機手：主に機材の立ち上げや操作を行う役割

06 若き5人の戦士、水路潜入訓練の実施

輝く大海原で奮闘

第14偵察隊(隊長 堀慎也2等陸佐)は、7月、名部戸海水浴場(香川県)において水路潜入訓練を行いました。

水路潜入とは、5人乗りのゴムボートを使用し、昼夜間を問わず目的地に水路から潜入するものであり、時には隊員のみでなくオートバイも積載して、目標地点を目指して水上を移動します。

当初、本訓練に参加した5名の隊員は、海水浴場の水面同様に目をキラキラさせ潜入を開始しましたが、息が合わず思うように前に進みません。同乗する先輩の楳が飛ぶ中、持ち前の肉体と精神力を発揮し、何度も繰り返し練成を行うことで徐々に5人の呼吸が合いスムーズに潜入動作を行うことができました。

今回は、練成のため昼間に行いましたが、狭い岩場や周りが見えない夜中でもボートを操れるよう日々の訓練に取り組んでいきます。



5人が息を合わせて漕ぐ様子



上陸前に前方を警戒しつつつ推進する様子

07 旅団システム通信訓練の実施

各部隊が保有する様々な器材を接続し通信を確保→



訓練の全景

作戦に必要な通信を！

第14通信隊(隊長 脇田祐一郎2等陸佐)は、6月下旬、善通寺駐屯地において旅団システム通信訓練を実施しました。

本訓練は、第14旅団に所属する部隊及び他方面隊等からも多くの部隊が参加しました。

本訓練の目的は、今後の大規模演習に向けた旅団システム通信組織の構成要領と通信が不通になった際の復旧要領の確認及び協同部隊との連携を図ることです。日頃から多くの部隊と協同で通信訓練を実施することで災害時等においても必ず必要になる通信を確保することができます。

併せて、本訓練間では強度で途絶えない通信を確保するための様々なシステムの検証を実施して更なる進化を果たしました。

08 任務を達成するための各個訓練

平素から準備を万全に！

第14旅団司令部付隊(隊長 菅貴光3等陸佐)は、司令部付隊各個訓練と銘打った「任務を達成するための訓練」を継続的に実施中です。これは災害派遣等での指揮所の開設や人命救助のための装備品の取り扱い、被災者に温かい食事を提供するための炊事など、任務を達成するために行う訓練です。全隊員が装備品を理解し、どのように扱うのかを体得することが目的です。

本訓練は、司令部付隊の特性である「多くの職種が集まる部隊」の利点を活かし、本来は専門職種の訓練でしか学べないコツや蓄積された知識を、各個訓練を通じて段階的かつ安全に他の職種の隊員も学べる事です。

我々は各職種の蓄積された知識の結晶を組織化して、効率的に任務達成に結び付けるよう、訓練していきます。

「この隊員がいないと分からない」という事が無いように、全隊員が各種装備品を取り扱えるよう訓練を行います。訓練の中でも、「大雨が降っていたら?」「夜の暗い中ならどうなのか?」など様々な想像力を発揮して、確実に「任務完遂」できるようにこれからも準備を万全にしていきたいと思います。



師団等指揮システムの開設



水トレーラーの活用方法の教育

「入隊のきっかけ」

第14飛行隊 3曹 花岡 正樹

私が自衛隊に入隊するきっかけになった話の話をします。

当時、小学校6年生の私に、高校3年生の姉は、「自衛隊に入隊する。」と言っていました。私はそれまで姉から将来の夢など、聞いたこともなかったもので、とても驚いたことを覚えていません。その後は、防衛医科大学校看護学部を受験するためずっと勉強漬けでした。「どうしてそんなに頑張ってる、自衛隊に入りたいの」と姉に聞くと、整然とした態度で「人の役に立てる仕事に就きたいから。私にとってそれが自衛隊なの。」と答えたのです。その時の姉の言動は、とても衝撃的で、今でも鮮明に覚えています。それから一年後、無事に看護学部合格し、今では、陸上自衛隊中央病院で看護幹部として勤務しています。

私は、そんな姉の影響を受け、今まで身近でなかった自衛隊に興味を持ち、入隊したいと思うようになりました。そして、必死に勉強して、自衛隊に見事入隊できることになりました。今では無線通信陸曹として勤務しています。部隊では任務、災害派遣を経験すること、人の役に立つという仕事のやりがいを感じる事ができています。こんなやりがいのある仕事に就けるきっかけをくれた姉には、とても感謝しています。どんな時も、一人前の陸曹として胸を張れるよう日々訓練成果を積み上げていきます。



花岡3曹 (写真：右)

百発百中！



Rapid Deployment Regiment

今回は、16式機動戦闘車の砲手（射撃を行う役職）であり、16式機動戦闘車を使った射撃のプロの中のプロである角田3曹にスポットを当てていきます。

角田3曹に聞きました！
日頃どのようなお仕事をされていますか？

最新装備である16式機動戦闘車に乗り、戦闘車の中で射撃をする役割についています。普段は射撃の練習や整備をしており、演習では実弾を使った射撃や警戒監視など様々な訓練をしています。

年々変化する情勢による任務の多様化に的確に対応すべく、諸先輩からの教えや伝統を尊重しつつ、自己の経験や技能を教え、多様性の時代を生きる新時代の後輩を育成していく事が現職のやりがいであり、同時に防衛力の強化に繋がっていくと信じています！

周りの方に聞きました！

角田3曹はどんな人ですか？

角田3曹は、常に笑顔絶やさずことなく周囲の隊員を持ち前のトーク力を活かして笑顔にするムードメーカーであります。しかし、仕事になるとスイッチが切り替わり、隙の無いまさに戦闘員という凄みがあり他の隊員の模範になる隊員です。

他にも令和5年度に米国で実施された「ライジングサンダー23」という訓練において、国外で初めて16式機動戦闘車による遠距離射撃で成果を挙げ、米軍の砲兵旅団長より褒章されるなど国内だけでなく海外の軍人からも注目を集める隊員です。小隊長としてだけでなく陸曹教育隊同期としても誇れる隊員であり、引き続き中隊の核心として我が中隊を日本一の機動戦闘車中隊にしてくれると確信しています。

第15即応機動連隊

近藤2尉



隊員紹介

- 部隊 ▶ 第15即応機動連隊第1機動戦闘車中隊
- 氏名 ▶ 角田 俊輔(つのだ しゅんすけ)
- 趣味 ▶ 車・キャンプ・酒・釣り
- 特技 ▶ DIY(座右の銘「無いものは作る」)

機動戦闘車隊の隊員は団結力があり、一丸となって和気あいあいと勤務しています。機甲科の伝統である「厳しい躰を重んじ、機甲斯くあるべし」のもとに複雑多岐にわたる任務に日々邁進しています。実動時の統率のとれた各機動戦闘車の動きは、部隊のマークにもなっている「狼」のまさしく「群れ」といった様子です。

ONE PHOTO



募集広報の日

善通寺駐屯地を開放し、第14旅団の各職種の紹介や隊員との懇談を行い、自衛隊を身近に感じていただきました。



旅団集合教育「レンジャー」帰還式

約3カ月にわたる訓練を乗り越えた隊員は帰還式において部隊や家族に見守るなかレンジャーき章を授与しました。



戦傷治療集合訓練

負傷した隊員を迅速・確実に救護するための知識と技能を普及して、部隊の戦傷治療能力の向上を図りました。



部隊相談員集合訓練

各部隊の隊員の気づき役となるため、傾聴技法などを普及しました。



新隊員後期特技課程

軽火器、砲迫、通信、整備、需品、施設の新隊員後期教育を実施中です。基本基礎を身に着けた新隊員は各特技の専門的知識を学んでいます。

転出

転入

ジャンプガイド

令和6年8月1日付

第36普通科連隊
(第14旅団司令部第3部長)
1等陸佐 早田 知弘

陸上幕僚監部
(第14飛行隊長)
2等陸佐 池水 俊二

2等陸佐 堀 慎也
第2師団司令部
(第14偵察隊長)

1等陸佐 佐藤 欣央
陸上自衛隊北海道補給処
(第14後方支援隊長)

令和6年8月1日付

1等陸佐 平山 雄三
第14旅団司令部第3部長
(教育訓練研究本部)

2等陸佐 桑原 正之
第14飛行隊長
(陸上幕僚監部)

2等陸佐 神品 秀雄
第14偵察隊長
(北部方面総監部)

1等陸佐 渡邊 修
第14後方支援隊長
(中部方面総監部装備部)

陸上自衛隊 第14旅団

TEL. 0877-62-2311
〒765-8502 香川県善通寺市南町2-1-1

CONTENTS

- トップページ
- 第14旅団の紹介
- 第14旅団長の紹介
- イベント情報
- 活動状況
- 広報紙「しこく」
- 災害派遣記録
- 四国の災害情報受付
- アクセス
- お問い合わせ

四国の護り

第14旅団では、HP・X・Facebookにおいて活動状況を発信しています。また、HPにおいては第14旅団の紹介やイベント情報などを掲載しております。



HP



X



Facebook

第14旅団

検索

四国内 イベントスケジュール

第14旅団は、様々なイベントに装備品展示や音楽演奏などで参加しています！
皆様のご来場お待ちしております♪

9/7

JCわくわくフェスタ

第14施設隊が装備品展示を行います🚗🚒

9/14

JA常盤ふれあい祭り

第14高射特科隊が近SAMの展示を行います♪

9/28

かがわ防災フェスタ 2024

第15即応機動連隊が様々な装備品を展示します🚗🚒

9/28.29

よさこいアニメフェスタ

第50普通科連隊が装備品展示を行います🚗

10/19.20

刃物まつり

第50普通科連隊が装備品展示を行います🚗

10/19.20

ハルピア祭り

第50普通科連隊が車両展示します🚗🚒

10/26

第12回ナカまつり

装備品を展示します🚗🚒

10/27

古高松フェスティバル

第15即応機動連隊が様々な装備品を展示します🚗🚒

色の内訳（開催県）

- ・青：徳島県
- ・緑：香川県
- ・オレンジ：愛媛県
- ・赤：高知県

